

とことんエンジニアリング！ とことんをキャッチフレーズにさらなる未来へ飛躍する！



# 環境活動レポート

(対象期間：2025年1月1日～2025年12月31日)

空気と水のお医者さん



発行日 2026年6月13日

代表取締役 相川 守

## ■計画の策定 (1) 組織の概要

- 事業者名 株式会社平和エアテック
- 代表者氏名 相川 守
- 所在地 本 社: 静岡県熱海市青葉町3-9  
工 場: 静岡県熱海市紅葉ガ丘町17-21  
沼津本部: 静岡県駿東郡清水町久米田61-18
- 事業内容 空気調和換気設備の設計施工  
冷凍冷蔵設備の設計施工  
給排水衛生設備の設計施工  
汚水処理施設、水道施設の設計施工  
浴場濾過装置、プール濾過装置の設計施工  
地中熱・排熱回収設備の研究及び設計施工  
上記各施設、機器の保守点検整備、修理施工
- 従業員数 21名 (2025年12月31日現在: 役員3名含む)
- 環境管理責任者 相川 毅
- 連絡先 TEL (0557)82-8231  
FAX (0557)82-6441  
(e-mail: info@heiwaairtec.com)
- 建設業許可 管工事業  
静岡県知事許可(特-3)第1740号  
電気工事業・機械器具設置工事業・水道施設工事業  
静岡県知事許可(般-3)第1740号

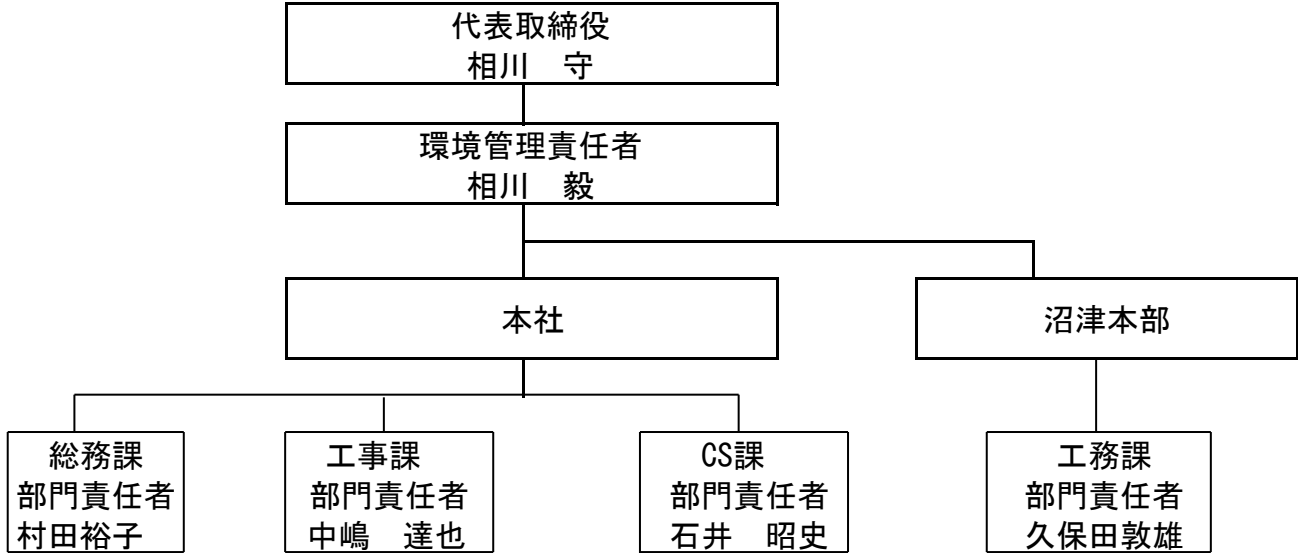
- 事業の規模 ① 設立 昭和40年2月22日  
② 事業規模

活動規模	単位	2023年	2024年	2025年
売上高	百万円	687	649	569
従業員	人	22	21	21
床面積	本社m <sup>2</sup>	743	743	743
	本部m <sup>2</sup>	321	321	321

- 事業年度 2月1日～1月31日
- 有資格者 (2025年12月)
- |                 |      |
|-----------------|------|
| 建築設備士           | 1 名  |
| 工学会設備士(空調・衛生)   | 1 名  |
| 1級管工事施工管理技士     | 8 名  |
| 2級管工事施工管理技士     | 5 名  |
| 1級冷凍空気調和機器施工技能士 | 10 名 |
| 建築物環境衛生管理技術者    | 3 名  |
| 第二種冷凍機械製造保安責任者  | 1 名  |
| 第二種電気工事士        | 8 名  |
| 第一種冷媒フロン類取扱技術者  | 5 名  |
| 冷媒フロン回収技術者      | 9 名  |
| 冷凍空調基幹技能者       | 3 名  |
| 消防設備士           | 2 名  |
| 2級建築士           | 2 名  |
| 給水装置工事主任技術者     | 5 名  |
| 下水道排水設備工事責任技術者  | 4 名  |

■計画の策定 (2) 対象範囲

- 対象範囲 **全社・全部門**
- 対象活動 **空気調和換気設備・冷凍冷蔵設備等の設計・施工**
- レポート対象期間 **2025年1月1日～2025年12月31日**
- 実施体制



担当	役割・責任・権限
代表者 相川 守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコアクション21に関する代表責任者</li> <li>・エコアクション21実施における人材、設備、費用を用意する</li> <li>・環境経営管理責任者の任命を行う</li> <li>・環境経営方針の制定、改訂及び全社員への周知</li> <li>・代表者による全体の評価と見直しを実施する。</li> <li>・環境経営マネジメントシステムの承認</li> <li>・経営の課題とチャンス明確化</li> </ul>
環境管理責任者 相川 毅	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営マネジメントシステム全体の構築、運用、維持に関する実務上の権限を有する</li> <li>・代表者への報告</li> <li>・環境経営マネジメントシステムの承認構築、実施及び運用管理</li> <li>・環境事務局の文書作成案に対するチェック及び改訂の指示</li> <li>・エコアクション21における文書の作成               <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営項目及び環境経営活動計画案の作成</li> <li>・環境関連法規等の取りまとめ及び遵守状況のチェック</li> <li>・取組に必要な場合の手順書案</li> <li>・事故及び緊急事態の想定結果及びその対応策の策定</li> <li>・環境負荷の自己チェック、取組の自己チェックの実施</li> </ul> </li> <li>・環境経営レポートの作成</li> </ul>
部門責任者 中嶋達也・石井昭史 久保田敦雄 村田裕子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部門における環境経営マネジメントの実施</li> <li>・各記録の実施</li> <li>・問題点のチェック及び予防処置の実施</li> <li>・緊急事態の試行及び訓練の実施</li> </ul>
全社員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営方針の確認・理解</li> <li>・各個人における環境経営マネジメントシステムの実施</li> </ul>

## ■ 計画の策定 (3) 環境経営方針

### ■ 企業理念

株式会社平和エアテックは、設備工事の事業活動を通じ地球環境を守るための環境に配慮した工事およびメンテナンスを積極的に取り組む企業を目指します。

### ■ 環境方針

1. 事業活動が環境に与える影響を把握し、環境保全に視点を置いた活動を推進致します。
  - ① CO2削減の為の省エネ活動に取り組みます。
  - ② 事業所及び現場で発生した廃棄物削減活動と再資源化推進活動に取り組みます。
  - ③ 地中熱・排熱回収事業の早期事業化と脱炭素事業の推進に取り組みます。
  - ④ 環境に配慮した商品を積極的に提案しユーザーの省エネ化に努めます。
  - ⑤ ITを駆使した働き方改革・時間短縮・効率化を推進します。
2. 環境に配慮した活動の目標を設定し、環境目標の達成状況及び活動計画の実施状況を定期的に確認・評価し、環境経営管理システムを継続的に改善致します。
3. 環境に関する法規制及び協定を遵守致します。
4. 事業の効率化を推進するために、作業・技術の標準化を進めると同時に先端技術の活用と教育システムの充実に取り組みます。
5. 全社員が環境経営方針を理解し、それを周知徹底すると共に、この方針を掲示し社員教育を計画的に実施し、環境問題への意識向上を図ります。

制定年月日 2011年10月 1日

改訂年月日 2022年10月 1日

株式会社平和エアテック

代表取締役 相川 守

## 4 中期環境経営目標

電力二酸化炭素換算係数：2025年度東京電力(0.421)

項目	単位	2023年度 基準年（実績） 2023.1～2023.12	2025年度目標 2025.1～2025.12	2026年度目標 2026.1～2026.12	2027年度目標 2027.1～2027.12	
二酸化炭素	事業所及び資材置き場での二酸化炭素削減	Kg-CO2	65,705	-3%	-4%	-5%
	購入電力	KWH	34,951	-3%	-4%	-5%
	ガソリン	L	21,678	-3%	-4%	-5%
	都市ガス	Nm3	41	-2%	-3%	-4%
廃棄物	一般廃棄物の削減	t	1.89	-3%	-4%	-5%
	建設副産物リサイクル率向上	%	85.2%	75%	78%	80%
水道使用量の削減		m3	242	215	210	205
フロンガス回収の徹底		%	100	100	100	100
新規顧客・既存客別分野開拓 (ニュースレター送付による)		件	169	+20	+23	+25
環境配慮型製品の提案及び推進		件		5	10	20
DXによる労働環境改善・効率化実施率		%		運用開始	100%	100%

※フロン漏えい点検顧客獲得件数は目標としてふさわしくなくなっており、回収の徹底があるので、削除した

※リモート監視システム導入件数・排熱地熱システム導入件数については、環境配慮型製品の提案・推進とした。

※DXによる効率化は、新規ツールの導入及び整備・運用、リモート監視による作業効率化を行う

※建設副産物リサイクル率については、工事内容等により変動するため、目標は75%としました。

### 環境経営計画

- 省エネ補助金を利用した、お客様設備に関する省エネ提案の推進(5件)
- 高付加価値商品（省エネ性能・温暖化係数の低いフロンガス使用機器）の販売促進（販売量の30%）
- ICT・IoT等を活用したリモート監視システム導入の促進（5件）
- IT化による社内ペーパーレス化、リモート会議等による移動等の削減を実施（強化）
- 働き方改革による年間休日数増加に伴う効率化をIT化を用いて推進、代休取得義務化
- 新規車両購入時の安全装置・燃費効率の高い車両の選択（随時）
- 排熱利用・地熱利用による冷暖房等システムの販売に向けた取り組みを強化する

運用期間（2025年1月～2025年12月）の実績と取組結果の評価

電力二酸化炭素換算係数：2025年度東京電力(0.421)

	項目	単位	2023年度	2025年度	2025年度	評価
			基準年 2023.1～2023.12	目標値(-3%) 2025.1～2025.12	実績 2025.1～2025.12	
二酸化炭素	事業所及び資材置き場での二酸化炭素削減	Kg-CO2	65,705	63,730	61,257	○
	購入電力	KWH	34,951	33,900	28,834	○
	ガソリン	L	21,678	21,020	21,432	×
	都市ガス	Nm3	41	40	17	○
廃棄物	一般廃棄物の削減	t	1.89	1.83	1.73	○
	建設副産物リサイクル率向上	%	85.2%	75.0%	95.1%	○
	水道使用量の削減	m3	242	215	216	△
	フロンガス回収の徹底	%	100	100	100	○
	新規顧客・既存客別分野開拓 <small>(ニュースレター送付による)</small>	件	169	189	173(+3)	×
	環境配慮型製品の提案及び推進	件		5	4	△
	DXによる労働環境改善・効率化実施率	%		運用開始	運用準備	△

取組結果の評価

<次年度について>

●目標を一部変更した。数値化できる新しい目標を設定していきたい。（特に労働環境改善）

<評価【×】項目の原因と対策>

●ガソリン

目標値に対し増加となった理由として現場所在地による距離の増大が原因となる。さらなる削減策(現場移動時の車両台数減など)を検討する。

●新規顧客・既存客別分野開拓

新しいお客様は3件増加した。内容をお客様の要望を考慮し変更し、不要というお客様はいなかったが、増加件数は微増にとどまった。来期には分野開拓に力を入れ、目標設定を変更し対応したい。（既存客分野増数など）

<評価【△】項目の原因と対策>

●排熱・地熱利用システムの導入件数から、環境配慮型製品の提案及び推進とした。お客様からの提案依頼は増加傾向にあるが、社内教育の遅れから本来の需要に追いついていない状況。改善のため、積極的に技術教育に取り組んでいきたい。

●DXによる労働環境改善・効率化実施率について、社内システムの改修、外部ツールの導入（SpiderPlus, Safieなど）を進め、今期より運用を推進していく。

●水道量については、実験設備の稼働が本格化しておらず、水道使用量が少ない状況と考えられる。ショールーム来場者の増加及び技術教育のためにも実験機会を増加させ、それに応じた水道・ガス使用量の基準値を見直す。その上で節水設備の活用等のより使用量を抑制していきたい。

<その他>

●新規車両購入時の安全装置・燃費効率の高い車両の選択は実施されている

●排熱回収利用システム・地熱回収利用システムの研究開発・販売を通してさらなる環境保全に取り組んでいきたい。

以下の環境経営計画については、次の通り

- 省エネ補助金を利用した、お客様設備に関する省エネ提案の推進 → 補助金が多く、着実に増加している
- 高付加価値商品（省エネ性能・温暖化係数の低いフロンガス使用機器）の販売促進（販売量の30%） → 高効率商品を数多く提案
- ICT・IOT等を活用したリモート監視システム導入の促進 → 実施案件が増えている。さらに強化したい。
- IT化による社内ペーパーレス化、リモート会議等による移動等の削減を実施 → 実施できている
- 働き方改革による年間休日数増加に伴う効率化をIT化を用いて推進、代休取得義務化 → 年間休日120日体制への移行を完了
- 新規車両購入時の安全装置・燃費効率の高い車両の選択（随時） → 新車納入時に全て対応
- 排熱利用・地熱利用による冷暖房等システムの販売に向けた取り組みを強化する → 継続していく

中期環境経営活動計画

目的	区分	項目	担当	活動項目	2025年					
二酸化炭素の削減	購入電力	照明	村田 及川	①消灯の徹底 ②点灯タイマー時間の管理(センサーライトへの変更)	○ ○					
		空調	中嶋 小林	①温度設定 夏28° 冬21° ②クールビズ、ウォームビズ(空調服導入) ③フィルター定期清掃 ④使用していないエリアの空調停止 ⑤エコシルフィー使用による省エネ	○ ○ ○ ○ ○					
				○ A	村田 及川	①不必要時のパソコン電源切り ②スイッチオフによる待機電力の削減	△ ○			
				⋮	村田	①充電式電池の使用	○			
				ガソリン	作業車	久保田	①エコドライブ(協力業者への周知徹底と協力) ②エコ整備 ③日常・定期点検の実施 ④現場移動時の車両台数の最小化 ⑤ドライブレコーダー搭載と確認	△ ○ ○ ○ ○		
							公共工事 50百万円	削減計画 立案	適宜	①施工計画に削減計画反映と活動展開
	廃棄物のリサイクル	事務所	中嶋 久保田				①コピー用紙の使用数削減 ②封筒・ファイルの再利用 ③本社・本部間のやりとりの電子化 ④廃棄物の分別とリサイクル ⑤3Rの実践 ⑥使い捨て製品の購入を抑制 ⑦廃棄物の置き場を設置(直置き禁止)	△ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		
				建設副 産物の リサイク	中嶋	①廃棄物の分別化 ②分別ルート新規開拓 ③仮設資材、用具のリユース化	○ ○ ○			
				節水	上水	小林	①節水表示 ②ストップガンの取り付け ③節水こまの取り付け ④漏水点検の定期的実施	○ ○ ○ ○		
							フロン回収再生	小林	①フロン排出抑制法による対応に準拠 ②既存顧客への定期及び簡易点検100%維持	○ ○
							新規顧客・既存客別分野 開拓	適宜	①高効率空調・換気・給湯の設計提案 ②補助金を活用した高効率機器への更新提案 ③ニュースレター及びメーリングリストによる新規提案 ④フロン漏洩点検実施の提案 ⑤ニュースレター・メーリングリスト配布先データ取得 ⑥設備保守リモート監視システムの実施 ⑦地中熱・排熱利用空調・給湯システムの社内講習による技術向上	○ ○ ○ ○ ○ △ △
									その他	適宜

計画の評価と今後の取組

目的	項目	活動項目	評価		今後の取組	
			評価	内容		
二酸化炭素の削減	照明	①消灯の徹底	○	徹底されている	継続	
		②点灯タイマー時間の管理(センサーライトへの変更)	○	徹底されている	継続	
	空調	①温度設定 夏28° 冬21°	○	徹底されている	継続	
		②クールビズ、ウォームビズ(空調服導入)	○	徹底されている	継続	
		③フィルター定期清掃	○	空調服導入・各自工夫あり	継続	
		④使用していないエリアの空調停止	○	徹底されている	継続	
		⑤エコシルフィー使用による省エネ	○	徹底されている	継続	
	O A	①不必要時のパソコン電源切り	△	実施している(一部忘れ有り)	徹底する	
		②スイッチオフによる待機電力の削減	○	実施している	継続	
	その他	①充電式電池の使用	○	実施されている	継続	
		作業車	①コドライブ(協力業者への周知徹底と協力)	△	自社はOK。協力業者対応したい	継続
			②点検整備	○	実施している	継続
			③日常・定期点検の実施	○	徹底されている	継続
			④省エネ・安全装置搭載車の導入	○	実施している	継続
⑤ドライブレコーダー搭載と確認	○		徹底されている	継続		
削減計画立案	①施工計画に削減計画反映と活動展開	-	該当工事なし			
廃棄物のリサイクル	事務所	①コピー用紙の使用数削減	△	無駄な印刷がある	徹底する	
		②封筒・ファイルの再利用	○	徹底されている	継続	
		③本社・本部間のやりとりの電子化	○	効果有り	継続	
		④廃棄物の分別とリサイクル	○	徹底されている	継続	
		⑤3Rの実践	○	徹底されている	継続	
		⑥使い捨て製品の購入を抑制	○	徹底されている	継続	
		⑦廃棄物の置き場を設置(直置き禁止)	○	実施している	継続	
	建築副産物	①廃棄物の分別化	○	実施している	開始	
		②分別ルート新規開拓	○	まだできる部分がある	継続	
		③仮設資材、用具のリユース化	○	再利用できている	継続	
節水	上水	①節水表示	○	実施している	継続	
		②ストップガンの取り付け	○	取付済み(動作確認)	継続	
		③節水こまの取り付け	○	取付済み(動作確認)	継続	
		④漏水点検の定期的実施	○	実施している	継続	
フロン	①フロン排出抑制法による対応に準拠	○	徹底されている	継続		
	②既存顧客への定期及び簡易点検100%維持	○	徹底されている	継続		
分野開拓	①高効率空調・換気・給湯の設計提案	○	実施している	継続		
	②補助金を活用した高効率機器への更新提案	○	実施している	継続		
	③ニュースレター及びメールマガジンによる新規提案	○	実施している	継続		
	④フロン漏洩点検実施の提案	○	実施している	継続		
	⑤ニュースレター・メールマガジン配布先データ取得	○	実施している	継続		
	⑥設備保守リモート監視システムの実施	△	効果が出始めている	件数増加		
	⑦地中熱・排熱利用空調・給湯システムの社内講習による技術向上	△	足りない	実施		
その他	①有給休暇取得率の増加と、労働管理(残業・継続勤務等)の徹底	△	まだ足りない部分がある	増加対応		
	②ICT活用による保守メンテナンス・社内書類作成の効率化	×	テスト段階でまだ	方法検討		
	③取得資格の増加(施工管理技士・技能士)	△	事前教育の必要あり	教育の実施		
	④講習資格の受講増加	△	さらなる増加が必要	対応		
	⑤本社ショールームへの顧客見学件数の増加	×	ほとんど出来ていない	アピール方法検討		
	⑥社内講習会の実施(毎月)	△	繁忙期で実施出来ていない	時期と講師		

**環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無**

**1.環境関連法規の遵守状況**

当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

法規・条例・規制	適用内容または規制基準値	備考	確認日	確認者	評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 静岡県産業廃棄物適正な処理に関する条例	廃棄物排出事業所との委託契約	契約(書)の締結(自動更新)及び許可有効期限確認	2025.01.06	村田・専務	○
	マニフェストの管理	D票、E票の返却	2025.12.21	村田・専務	○
	マニフェストの期間内返却	90日以内又は180日以内	2025.12.21	村田・専務	○
	マニフェストの保管	5年間	2025.12.21	専務・村田	○
	投棄禁止	不法投棄を行わない	2025.12.21	専務	○
	廃棄物の悪臭・飛散防止	車両荷台にシートを被せる等	2025.12.21	統括	○
	保管場所への掲示	60cm×60cm以上掲示	2025.12.21	専務	○
	マニフェストの年間集計と知事への報告	6月30日までに提出	2025.6.25	専務	○
	産業廃棄物管理責任者の選任	相川 毅	随時	専務	○
	処分場の実地確認	セキトランスシステム	2025.11.30	専務	○
建築リサイクル法	建設副産物のリサイクル	工事計画書・実績報告	2025.12.21	社長	○
騒音・振動規則法	特定作業規制	指定地域・時間帯規制	2025.12.21	社長	○
	特定作業規制	指定地域・時間帯規制	2025.12.21	社長	○
家電リサイクル法	指定家電の収集	エアコン・冷蔵庫 他	随時	専務	○
PCリサイクル法	OA機器の収集	パソコン・モニタ 他	2025.12.21	専務	○
地球温暖化対策推進法	温室効果ガス抑制措置	自治体施策へ協力	2025.12.21	社長	○
	3Rへの努力	廃棄物等の内、有用な物の循環的な利用を促進	2025.12.21	社長	○
グリーン購入法	環境物品の購入及び工事材料提案	事業者の一般的責務/工事計画書	2025.12.21	専務	○
自動車リサイクル法	引取業者への引渡し	リサイクル料金の支払い	随時	専務・村田	○
フロン排出抑制法	業務用エアコン簡易点検	設置機器の漏えい簡易点検(3ヶ月に一度)	2025.12.28	社長・専務	○
	関係書類の発行、管理	漏えい簡易点検・定期点検報告書の発行・管理	随時	専務	○
	回収・充填・破壊量の記録、報告	3月31日まで分をに県に報告	2025.3.20	専務・及川	○
高圧ガス保安法	高圧ガス販売許可	高圧ガス容器の点検	2025.1.11	社長	○
熱海市一般廃棄物処理に関する条例	一般廃棄物の分別搬出		2025.12.21	村田・社長	○
清水町一般廃棄物に関する条例	一般廃棄物の分別搬出		2025.12.21	及川・専務	○
消防法	消防設備設置届の提出		2025.12.21	社長	○
水道法	給水装置資格者の申請、検査立会		2025.12.21	社長	○
下水道法	配水設備資格者の申請、検査立会		2025.12.21	社長	○

遵守評価日: 2025年12月26日(評価者: 環境管理責任者)

**2.違反、訴訟等の有無**

関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟は過去3年間ありませんでした。



## 環境上の緊急対策

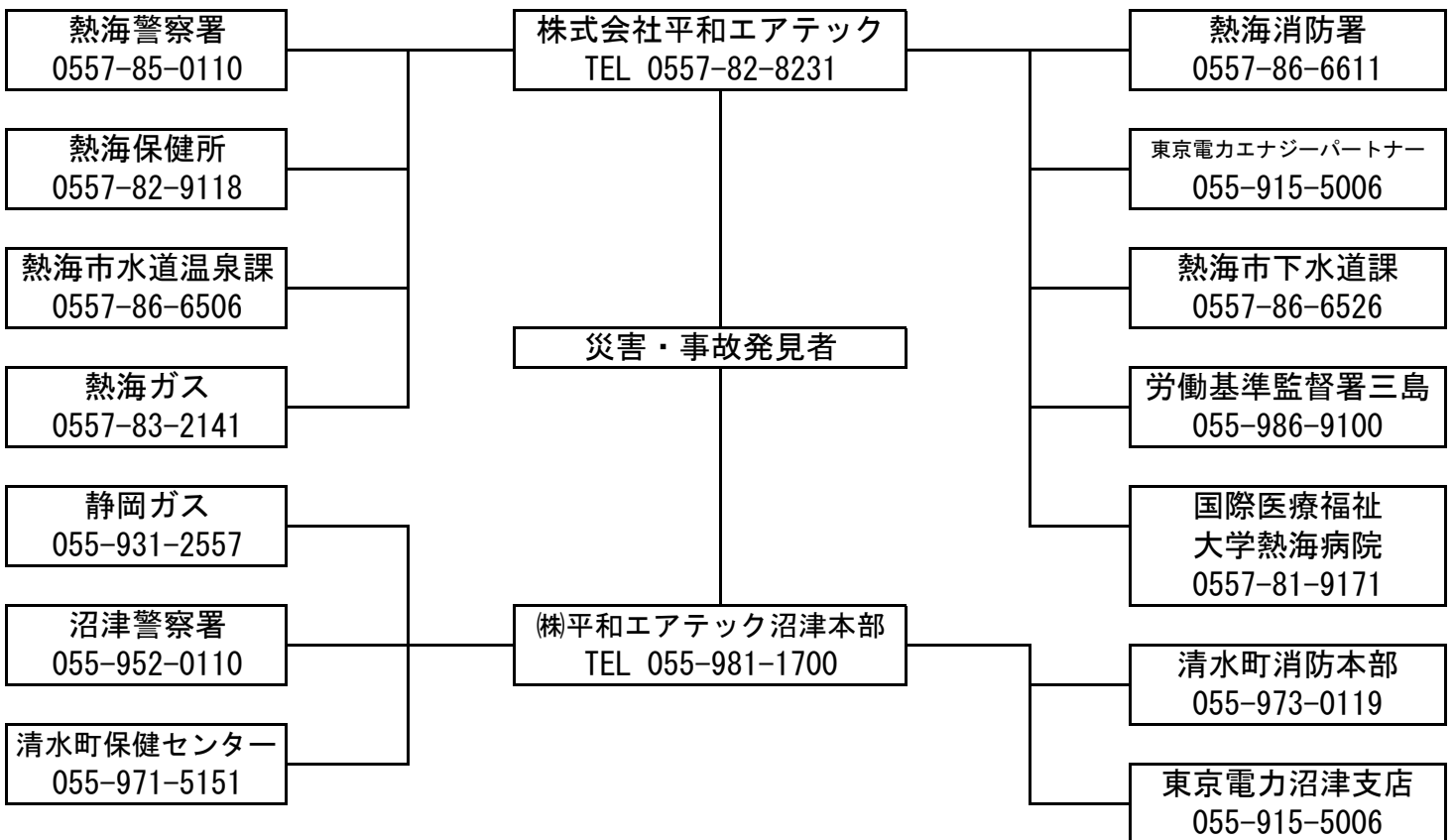
訓練実施日 2025年12月21日

項目	想定される緊急事態	対応	訓練	結果
火災	・ 酸素、窒素、アセチレン、フロンボンベなど可燃性ガス漏洩による火災	・ 初期消火の実施 ・ 消防署に連絡 ・ 避難の勧告	・ 消火器の設置管理 ・ 消火器の有効期限確認 ・ ボンベ等転倒防止の確認 ・ ホース、バルブの漏洩検査 本社(4)・本部(6)、参加者10名	OK OK OK OK
酸欠	・ フロンガス漏洩による酸欠状態	・ 換気作業 ・ 酸素濃度測定 ・ 消防署に連絡	・ 換気装置の作動確認 ・ フロンボンベの使用期限確認 ・ フロンボンベの漏洩検査 ・ 室温40℃以下での保管 本社(4)・本部(6)、参加者10名	OK OK OK OK
上水漏れ	・ 配管破裂 ・ 水栓不良	・ 止水栓を閉鎖 ・ 水道課に連絡 ・ 利用水の確保	・ 配管の目視点検 ・ 水栓全閉鎖の後量水器確認 ・ パッキン類の不良確認 本社(4)・本部(6)、参加者10名	OK OK OK

※対応策有効性の検証について

対応策の有効性については、訓練等の確認により変更の必要はありません。

## 緊急連絡網



## 2025(2025.1～2025.12)年度教育記録

No.	年月日	主催・会場	教育名	講師	教育内容	対象者(参加者)	備考
1	2025/2/3	本社・本部 (TV会議)	新年度の目標	社長	2025年(第61期)の目標・方針発表	全員	プロジェクター・資料
2	2025/2/21	本社2階	経営方針発表会	社長	前期結果・お客様アンケート結果・61期詳細 方針・目標確認・社員表彰	全員	プロジェクター・資料
3	2025/3/31	本社2階	安全運転管理推 進事業所まとめ	専務	一年間の活動報告と、注意事項、推進事業所 終了後の活動について	全員	レポート
4	2025/6/30	本社2階	エコ・アクション反 省と目標	専務	今後の活動について	全員	レポート
5	2025/12/21	本社	上水漏・火災・酸 欠訓練	専務(環境管 理責任者)	1.漏水検査(メーター確認) 2.止水栓閉鎖、連絡先の確認 3.消化器の期限確認 連絡先の確認	本社	特に問題無し
6	2025/2/12他 全7回	本社	HGS講習	社長・メーカー 他	ダイキン新製品講習・排熱回収の仕組みなど	参加希望者による	講師・資料

## 代表者による全体の評価と見直し・指示

### 全体の評価

システムの有効性については、実際の活動に即し非常に役に立っている。ガス・水道については実験・研究施設の本格運用に伴い、今後の使用実績を踏まえて目標の見直しを検討する。購入電力については減少傾向にあるが、実験装置の使用や地中熱輻射冷暖房の電力使用量の実績値を調査する必要があると同時に本社の使用量についても詳細検討が継続して必要である。環境経営方針の充実については今後も時代の変化に即応できる企業を目指しながら、「設備を売る会社」ではなく、「お客様の満足」と「省エネと脱炭素を提案する会社」として「人」を中心とした経営方針をさらに推進していく。法令については、継続して遵守されている。

継続していく取組としてIT・IoTを駆使したりリモート監視や、保守業務に関してもDXによる効率化をより一層進めていく。

お客様に体感してもらえる施設として、リモート監視、地中熱・排熱利用の実験研究が出来る施設を新本社に設置し運用しているが、見学を希望されるお客様に対して準備不足（人員不足）のため、人材採用・育成が引き続き重要課題である。

当社は、これからも「熱」をテーマとした環境負荷を削減する企業となるべく、ひとつづくり・ものづくりに邁進し、設備の施工会社としてだけでなく、省エネ・脱炭素・長寿命を提案する技術集団として地域社会に貢献して参ります。

### 代表者の指示内容

環境経営方針・実施体制は継続とする

環境経営目標は実験・研究室の稼働増に伴い適宜調整すること

中期環境活動の項目で新たな目標の設定を行うこと。（人・労務・人事等）

### 見直し指示

もう一度、目標に向けての取組で再検討が必要なところをしっかりと見直すこと。今期中に本部事務所の2階移転を実施すること。それに応じて、沼津本部の省エネ化を促進し、再度目標を検討こと。

実験研究室やショールームの設置によりお客様に体感しながらPRできる環境を有効活用し、自社と共にお客様の環境負荷低減に務めるためリモート監視や地中熱・排熱回収等の「熱」事業に本格的に取り組む。そのため、ショールームの来場件数を2026年の新規目標とすること。

継続して本業の重要な部分であるフロンガスの漏洩防止や回収再生を確実に行っていき、環境破壊防止に役立ちたい。

採用、育成については、会社全体・全ての社員の共通認識として全力で取り組むこと。

評価日 2026年6月13日

株式会社平和エアテック  
代表取締役 相川 守